

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）

A：十分達成できている

B：おおむね達成できている

C：やや不十分である

D：不十分である

学校名	佐賀県立中原特別支援学校（鳥栖田代分校）
1 前年度 評価結果の概要	○令和6年度校務分掌組織において、自立活動部を「自立活動部」と「研究部」に分離し、それぞれの役割を明確にしつつ連携をとることで、自立活動の推進、授業づくりの充実等、専門性の向上を図ることができた。 ○進路指導、特別支援教育のセンター的機能、ICTの充実については、保護者や地域への周知・啓発を促進し、人的な制限下でできる取組を精選しながら、充実を図る必要がある。 ○教育課程の適切な実施と、校務運営の効率化において一定の成果が見られたが、令和8年度開港予定の鳥栖特別支援学校への機能集約も意識しながら、引き続き、全職員で取り組む支援体制を強化する必要がある。
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標	「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」 ① 専門性の更なる向上と、教育活動への反映 ② 個に応じた自立活動の指導の充実 ③ 鳥栖特別支援学校への移行と学びの連続性を意識した取組の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による生きる力の育成	○知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本を踏まえ、一人一人の各教科等の実施状況と評価により、生きる力を育成できたと答える教員が80%以上 ○一人一人のニーズに応じた指導・支援をとおして、日常生活や社会生活に生きて働く力が身に付いていると答える保護者が80%以上	・個別の指導計画の位置付け及び知的障害の各教科等の内容と「学びの履歴」を踏まえた計画の作成・活用・評価、PDCAサイクルに基づいて授業改善について、紙面や研修により周知徹底を図る。 ・複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行えるよう、年3回個別の指導計画検討会をもつ。 ・教務主任、主事等が、知的障害のある児童生徒の学習上の特性等を踏まえた指導・支援の在り方について指導助言を行う。	・		・				教務部
●心の教育	●児童生徒が、他者への思いやりや社会性、感動する心などの豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活全般において、「思いやりや豊かな心」を育むことを意識して指導・支援を行ったと答える教員が80%以上 ○学校生活を通して、児童生徒は「思いやりや豊かな心」を育んでいると思う保護者が80%以上	・道徳的な価値を育むことを学級経営上の目標とする。 ・日常生活の指導や生活単元学習の時間において、特別の教科道徳の内容を適切に取り扱う。 ・「思いやり」や「豊かな心」を表現した児童生徒の具体的な姿を、連絡帳や通信等で保護者に伝える。	・		・				生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ」の芽となる事象について、職員間や保護者との連携により早期発見と適切な対応をしていると答える教員が80%以上 ○児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者が80%以上	・いじめの未然防止、早期発見と対応ができるよう、職員の報告・連絡・相談体制を整える。 ・年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の保護者との会話や連絡帳を活用して情報の共有に努める。 ・人権・同和教育に関する研修を行う。	・		・				生活指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生は子どものよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者が80%以上 ●「将来の夢」「目標」について肯定的なイメージをもち、そのためにかんばりたい意思表示をした児童生徒80%以上	・今と将来の豊かな生活の実現につながるような単元を設定する。 ・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人実感できるような評価や働きかけをする。 ・将来に向けた取組や進路に関して、保護者へ情報提供を行う。	・		・				
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化 ●望ましい生活習慣の形成	○朝の運動や体育の授業により、子どもに、体を動かす習慣や体力がついたと答える保護者が80%以上 ○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べていると回答した児童生徒が80%以上	・朝の運動を毎日実施するとともに、体育、音楽、生活単元学習等での身体表現との関連付けを意識した授業実践に取り組む。 ・身体のことや生活習慣に関する単元を設定する。 ・保健だよりを年8部発行する中で、運動習慣や生活習慣に関する内容を4部以上で取り上げる。	・		・				保健指導部
●地域支援	●地域や関係機関と連携した包括的な支援体制の構築及び取組の充実	○鳥栖田代分校は、支援会議や保育所等訪問を実施し、地域や関係機関と連携しながら子どもを支援していると回答する保護者及び職員が70%以上 ○学校間、居住地校交流、地域間交流をとおして、相互の理解が深まったと答える保護者、職員が80%以上	・地域や教育委員会主催の会議や研修に参加し、情報収集や協働体制づくりに努める。 ・支援会議や教育支援計画作成に当たって、関係機関や専門家の意見を多く取り入れる。 ・実態に応じて、年に数回、居住地校交流や地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。 ・交流の様子を連絡帳で保護者に伝えとともに、管理職が居住地校に出向き、交流の内容を通信等で伝える。	・		・				地域支援部 総務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・話し合いや事務作業の効率化及び授業実践の充実の両立を目指すよう「働き方ガイドライン」を作成し、職員の行動目標の指標とする。 ・年間9回の「完全定時退勤日」を設定するとともに、3日前から職員へ予告し業務調整を促す。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。	・		・				管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○自立活動の推進	○自立活動に係る専門性の向上と、授業実践の充実	○自立活動についての知見を深め、児童生徒一人一人の具体的な指導内容を検討することができたと回答する教職員が80%以上	・児童生徒一人一人の具体的な指導につながるよう、本校の児童生徒を対象とした自立活動の事例研修を行う。 ・知的障害の自立活動に関する先進的な取組を知り、それぞれの指導に生かせるよう、外部人材を活用した研修を実施する。	・						研究部 自立活動部
○教育DXの推進	○教育活動におけるICT等の機器活用 ○デジタル化による効率的な校務の実施	○ICT等の機器を用いて、児童生徒の教科等の学習をする機会が増えたと答える教員、保護者が70%以上 ○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員が70%以上	・ICT活用に係る職員研修や実践事例の紹介を行う。 ・本校における児童生徒へのICT利活用の事例や指導内容を通信等で伝える。(分校だより) ・研修等のオンデマンド化やアンケートや提出物のデジタル化を一層推進する。	・		・				ICT教育支援部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------